

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	子ども・家庭相談コーナーの運営						掲載ページ
							89
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり	担当局	子ども家庭局
		84,403 千円	88,085 千円	施策名	子育ての悩みや不安への対応	担当課	子育て支援課

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	「子ども・家庭相談コーナー」で、子どもと家庭に関するあらゆる相談に応じ、それぞれの内容に応じた支援・対応を行い、相談者の不安や負担感の軽減を図ります。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画	子どもと家庭に関するあらゆる相談に応じ、母子家庭の自立支援、DV被害者対応、児童虐待対応等、それぞれの相談に応じた支援・対応を行うとともに、必要に応じて他の機関のサービス・支援へとつなげ、総合的な相談窓口としての役割を担います。					
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】	
	相談件数	76,648 件	-	77,404 件	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	各区の子ども・家庭相談コーナーにおいて、子ども・家庭相談員等が、来所、電話、訪問、手紙など、様々な形態による相談に応じています。その相談件数を活動指標として設定しました。				大変順調	
	(最終目標と最終年度)				順調	
				やや遅れ		
				遅れ		

【Check】評価(分析)		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。
		子どもと家庭に関するあらゆる相談に応じ、それぞれの内容に応じた支援・対応を行い、相談者の不安や負担感の軽減を図るとともに、関係機関との連携により一定の成果をあげており、事業の適切な運営がなされています。
		事業の実施にあたり、計画的な研修を通じ相談員の資質向上を図るなど効率的な運営をしています。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
子どもと家庭に関する相談は増加傾向にあり、またその内容は複雑化していることから、相談員にはより高い専門性が求められています。そのため、相談員を対象に年間を通じて計画的に行っている初任者研修、主務者研修、弁護士会との合同研修、事例検討会等に加え、子ども・家庭相談コーナーのニーズに応じた研修を新たに行うことにより、相談員の資質の向上を図り、あらゆる相談にきめ細かく対応していきます。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	生後4か月までの乳児家庭全戸訪問事業の充実						掲載ページ
							64
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり	担当局	子ども家庭局
		44,211 千円 「のびのび赤ちゃん訪問事業」の総額 本事業はその一部	45,590 千円	施策名	母子保健	担当課	子育て支援課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	生後4か月までの乳児がいる家庭を訪問し、子育ての孤立化を防ぐために、様々な不安や悩みを聞き、子育て支援に関する必要な情報提供を行うとともに、支援が必要な家庭に対しては適切なサービス提供に結びつけることにより、地域のなかで子どもが健やかに育成できる環境整備を図ります。		活動実績	活動結果は下記のとおりです		
活動計画	訪問を継続実施し、訪問担当者に対する研修会を行うなど、事業の充実を図ります。訪問等で直接面接して情報を提供します。						
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)		【活動の状況】	
	専門職による訪問数	5855 件	適切な訪問	6,273 件	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	全戸訪問により母体の健康保持および胎児の健やかな発育を促すためには、専門職の訪問が必要なため指標を上げました。 (最終目標と最終年度)						
					順調	順調	
(最終目標と最終年度)				やや遅れ 遅れ			

【Check】評価(分析)		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。  対象家庭に専門職と地域支援者が協働して訪問し、面接できなかった家庭に対しても、その後の乳児健診において支援を行ったため順調と判断しました。子育ての孤立化を防ぎ、地域での見守り体制を充実していくために、今後も事業を継続します。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。  無償で活動している地域の主任児童委員と、専門職が協働で実施しているため、これ以上のコスト削減は困難です。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
面接できなかった家庭に対しても、その後の乳児健診において支援を行います。子育ての孤立化を防ぎ、地域での見守り体制を充実していくために、今後も事業を継続します。 今後も関係機関と連携し、事業を周知することおよび介入することで、より効果的な事業の推進を図ります。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	保育カウンセラー事業						掲載ページ
							41
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	仕事と子育ての両立支援	担当局	子ども家庭局
		1,426 千円	3,582 千円	施策名	保育サービス	担当課	保育課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	臨床心理士と保育課保育士が保育所を訪問し、児童虐待の疑い、養育困難など処遇の困難なケースの対応について、保育所の相談に応じ、子どものケアなどの必要な指導を行います。また、緊急の案件が生じた際に、迅速に保育所に出向き、児童、保護者、保育士等の心のケアを行います。			活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画		臨床心理士と保育課保育士が保育所を訪問し、児童虐待の疑い、養育困難など処遇の困難なケースの対応について、保育所の相談に応じて、助言、指導などを行います。また、緊急の案件が生じた際に、迅速に保育所に出向き、児童、保護者、保育士等の心のケアを行います。					
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)		【活動の状況】	
	臨床心理士と保育課保育士による保育所訪問等、保育所への対応の回数	99回	100回	99回	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	臨床心理士と保育課保育士が保育所を訪問し、虐待等の疑われる子どもの観察・指導・保育所職員のカウンセリング等を実施することが子どもの支援となり、保育所の質の向上になるので指標とあげました。 (最終目標と最終年度)			99%			
					順調	順調	
(最終目標と最終年度)				やや遅れ			

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	虐待の疑われる子どもやその保護者に対応する保育所(53か所)を訪問、報告の上った全事例について保育所への助言、指導等を通し、虐待への意識の向上、保育所の負担軽減を行いました。また、訪問して一定期間後に電話連絡等のフォロー(69か所)を行い、継続した支援を行いました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	保育カウンセラーの賃金は子ども総合センターの臨床心理士報酬費に基づき、金額を設定しています。カウンセリング等の専門的指導をする上で、これ以上のコスト削減はできません。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
重篤な案件を抱える保育所については優先的に継続して支援していきます。また、保育所が抱えているグレーゾーンの子どもたちへの対応も支援していきます。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	虐待の早期発見・迅速かつ適切な対応及び児童への支援のための連携強化						掲載ページ
							161
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局
		14,652 千円	16,710 千円	施策名	児童虐待への対応	担当課	子ども総合センター

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	児童虐待は子どもに対する最大の人権侵害です。児童虐待の発生予防、早期発見、早期対応及び適切な支援を行うため、関係各機関との連携を図ります。		活動実績	【児童虐待相談対応件数】 平成24年度実績 346件 (前年度実績 322件)		
活動計画	児童虐待相談対応の強化を図ります。				<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月法律相談を実施しました。</li> <li>児童虐待防止推進月間（11月）に「児童虐待問題連続講座」を2回実施しました。</li> <li>「児童虐待対応リーダー養成研修」を実施しました。</li> </ul>		
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）	【活動の状況】	
	児童虐待問題連続講座への参加者数		266 人	単年度目標設定なし	257 人	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	市民や関係機関職員を対象にした「児童虐待問題連続講座」を11月に開催するので、参加者数を指標として掲げました。  (最終目標と最終年度)減少(26年度)						
	児童虐待対応リーダー養成研修の参加者数		154 人	単年度目標設定なし	242 人	順調 やや遅れ 遅れ	順調
児童虐待の早期対応を図るため、保育所、学校等の職員を対象とした「児童虐待対応リーダー養成研修」を毎年実施しています。毎年対象施設が異なるため、参加者数も変動しますが、指標として掲げました。  (最終目標と最終年度)							

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	関係機関職員を対象とした「児童虐待対応リーダー養成研修」や市民や関係機関職員に対する「連続講座」などを実施した結果、児童虐待通告件数は、平成23年度に比べ15%（平成24年度：452件）と大幅に増加しています。これに対して、通告のうち虐待と認められたものの児童虐待対応件数は、平成23年度に比べ7.5%（平成24年度：346件）の増加に留まっており、子どもプランの目標設定時（平成20年度374件）と比較すると概ね順調に減少しています。このことから、児童虐待の早期発見や早期対応など、虐待が深刻化する前に適切な支援ができる社会環境づくりが進んでいると考えられます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	児童虐待対応は、子どもの安全が最優先であり、法的にも、区や児童相談所がマネジメントの主体とならざるを得ません。また、児童虐待に関する研修や啓発については、専門的な知識や経験が必要で、学識経験者等による講義に加え、一部研修では経験を積んだ職員が講師を行うなど、効率的に実施しています。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
<p>本事業は、施策に対する有効性も高く、特別な支援を要する子育て家庭への対応を図っていくうえで、重要な事業の一つであると考えています。今後も目標の達成に向け、着実な取り組みを進めていくことで、関係機関の虐待に対する専門性と連携の充実を図ります。</p> <p>平成25年度は、保育所を対象とした、「児童虐待対応リーダー」を養成する研修を開催するとともに、11月の児童虐待防止推進月間に「児童虐待問題連続講座」を開催します。また、児童虐待について、関係機関と連携を図りながら、発生予防、早期発見に努め、迅速かつ適切に対応し</p>

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	乳幼児健康診査未受診者フォローアップ事業						掲載ページ
							65
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり	担当局	子ども家庭局
		25,335 「すくすく子育て支援事業」の総額 本事業はその一部	千円	27,275 千円	施策名	母子保健	担当課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	虐待につながりやすい状況を早期に把握し予防するため、乳幼児健康診査未受診者に対して、家庭訪問を実施し、受診勧奨するとともに、養育に関する相談に応じます。また、妊婦や乳幼児の健康診査をデータ管理し、受診結果に応じて保健指導を行いません。			活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画	事業の継続実施						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）		【活動の状況】	
	家庭訪問件数	342 件	適切な訪問	394 件	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	虐待を予防するために、4か月・1歳6か月児健康診査未受診者に対して家庭訪問し、状況を確認することは必要です。 (最終目標と最終年度)						
					順調	順調	
	(最終目標と最終年度)			遅れ			

【Check】評価(分析)		
分析及び課題の整理	<p>【活動の状況】を踏まえた分析</p> <p>活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。</p>	<p>予定どおり、4か月児と1歳6か月児健康診査の未受診者に対して、受診勧奨のはがきを送付するとともに、訪問等により子どもの成長発達や育児不安等の相談に応じることができました。健診受診を勧奨することで、乳幼児の健康保持や虐待を早期に発見する役割を果たせたため順調と判断しました。乳幼児健診の未受診者は、様々な問題を抱えていることがあるため、今後も受診勧奨し、支援することは必要です。</p>
	<p>「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか、また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。</p>	<p>関係機関と協議して実施しているため、これ以上のコスト削減は困難です。</p>

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
<p>乳幼児健康診査の未受診者に対して、受診勧奨し家庭訪問等の支援を行なうことで、育児不安の軽減や孤立化の防止に繋がっています。児童虐待予防のために、事業の充実を図りながら継続していきます。</p> <p>また、健診情報のデータ管理を確実にし、未受診者の確実な把握を行ないます。</p>

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	子ども総合センターの運営						掲載ページ
							90
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり	担当局	子ども家庭局
		95,208 千円	94,054 千円	施策名	子育ての悩みや不安への対応	担当課	子ども総合センター

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	児童福祉法に基づく児童福祉の専門的行政機関として、相談、指導、心理・障害判定、一時保護などの業務を行っており、児童虐待、非行、不登校などの様々な課題を抱える子どもや保護者に対応するため、カウンセリングやケースワーク、関係機関との調整、連携により適切な支援を行います。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	子どもや保護者などの相談者に適切な支援等を行うため、各種取組みを着実に進めていきます。						
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】		
	児童相談受付件数	4,628 件	単年度目標 設定なし	5,895 件	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	児童に関するあらゆる相談を受け付けた件数であり、児童福祉に関する専門的行政機関としての活動を最も端的に示すデータであることから指標に掲げました。 (最終目標と最終年度)			- %			順調
					やや遅れ	順調	
(最終目標と最終年度)			%	遅れ			

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	児童相談受付件数は、前年度並みに推移しており、相談者のニーズに適切に対応していると考えます。また、相談者には適時的確に支援を行っていることから今後とも推進を図ります。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	運営に係るコストについては、最小の経費で最大の効果を挙げるという組織管理の基本的理念に基づき、計画的かつ効率的な予算執行に努めてまいります。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
児童相談所(子ども総合センター)は、児童福祉法で政令指定都市に設置が義務付けられた行政機関であり、児童福祉の専門的機関として、児童を取り巻く多種多様な課題等に対し、迅速かつ適切に取組むことが必要です。今後とも、次代を担う子どもの健やかな育成のため、関係機関等との連携を密に図りながら、より効率的、効果的な事業運営に努めてまいります。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	家族のためのペアレントトレーニング事業						掲載ページ
							162
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局
		2,017 千円	2,135 千円	施策名	児童虐待への対応	担当課	子ども総合センター

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	虐待を行った保護者や養育不安のある保護者に対して、適切なカウンセリングを行いながら、児童に対する養育技術や家庭環境の整備に関する訓練を行うことを通して、虐待の未然防止、再発防止等を図るため、取り組んでいます。			活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画	対象家族への支援を継続していきます。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	【活動の状況】		
	参加家族数（養育不安コース）	18 件	20 件	17 件	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	プログラム等への参加家族数の増加が、養育技術習得や養育不安の軽減に直結することから、活動指標として掲げました。 （最終目標と最終年度）平成26年度 20家族			85.0 %			
	参加家族数（家族再統合コース）	18 件	20 件	11 件	順調 やや遅れ 遅れ	順調	
プログラム等への参加家族数の増加が、親子関係の改善や家庭環境の整備に直結することから、活動指標として掲げました。 （最終目標と最終年度）平成26年度 20家族	55.0 %						

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	虐待を行った保護者向け「家族再統合コース」（11家族）と養育不安を持つ保護者向け「養育不安コース」（17家族）を実施しました。 虐待を行った保護者や養育不安のある保護者に対して、本事業を通じて、児童に対する養育技術や家庭環境の整備に関する訓練を行い、特別な支援を要する子どもや家庭への支援を図る上において、有効性は高いと考えています。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	最小の経費で最大の効果を挙げるべく、計画的かつ効率的な予算執行に努めて、運営しています。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
<p>本事業は、施策に対する有効性も高く、特別な支援を要する子どもや家庭を支える上で、重要な事業の一つであると考えています。今後も目的の達成に向け、着実な取り組みを進めていくとともに、より多くの方に本事業に参加するよう努力する必要があると考えています。平成25年度は、新たに里親委託を受けた養育里親等も対象とし、里親支援をしていきます。引き続き、関係機関への周知を行うとともに、適用ケースの見極めや区役所におけるニーズの掘り起こしを進めていきます。</p>

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	メンタルフレンド派遣事業						掲載ページ
							111
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	子ども家庭局
		867 千円	1,227 千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	子ども総合センター

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	メンタルフレンドをひきこもり児童等の家庭等に派遣し、児童の心の健康を回復させるとともに、対人関係の向上や生活リズムの改善等を目指します。また、軽度の被虐待経験のある児童の家庭等に派遣し、児童の心理的安定や対人関係能力の向上を図り、親子関係の安定維持を目指します。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	(メンタルフレンドの派遣)定期的に児童の家庭等で会話やゲーム、スポーツ等を通じた児童とのふれあいの機会を作る。 (メンタルフレンドの募集、研修)選考、研修を経て登録者を決定。登録後も研修受講を義務付け、年1回以上の参加を継続登録の要件とする。						
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)		前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】	
	メンタルフレンド派遣実績		62 件	単年度目標設定なし	57 件	- %	大変順調
	メンタルフレンドの派遣件数の増加が、児童の心の健康回復や生活リズムの改善等に寄与することから、活動指標として掲げました。 (最終目標と最終年度)						
							遅れ
(最終目標と最終年度)						順調	

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	メンタルフレンドの募集の際には面接や研修を実施し、選考により登録者を決定するなど、質の確保にも努めました。 ひきこもりの状態にある児童や経度の被虐待経験がある児童に対して、一定の研修を積んだ資質と意欲のあるメンタルフレンドを派遣し、当該児童とのふれあいを通じて、心の健康回復や対人関係能力の向上、親子関係の安定維持を支援することができ、有効性は高いと考えます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	最小の経費で最大の効果をあげるべく、計画的かつ効率的な予算執行に努めて運営しています。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
青少年の健全育成を図るうえで、児童の心理的サポートや対人関係能力の向上等を目指した訪問活動を行う本事業の意義は大きく、今後も着実な取り組みが必要と考えています。利用実績が低迷している状況の中、今後も職員への周知を重ねるとともに、利用が適切と思われる児童の担当者への打診を行うことで利用の促進を図ります。また、さまざまなニーズに対応できるようメンタルフレンドの確保に努め、その充実を図ります。



# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	ひきこもり児童宿泊等指導事業						掲載ページ
							111
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	子ども家庭局
		1,655 千円	1,470 千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	子ども総合センター

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	不登校やひきこもり状態にある児童を対象に、通所による陶芸教室や青少年自然の家での宿泊プログラム等を実施し、社会適応力、対人関係能力、精神的安定及びストレスの解消を図ります。			活動実績	陶芸教室については毎月1回、年間で12回実施しました。また、各少年支援室独自で年2回ずつ、計10回のバス利用行事を行いました。さらに、バスを利用しない123回活動も計上しました。以前と比較して、コミュニケーション能力を向上させる機会がより増えました。	
活動計画	不登校児童等を対象にした体験型教室を実施します。						
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】		
	事業実施回数	43回	単年度目標 設定なし	45回	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	本事業は、児童に社会適応力を身につけさせるため、陶芸教室や宿泊体験プログラム等の中で、職員がマンツーマンで接し、行動観察を行い指導・援助を行うもので、事業の実施回数が事業目的に直結することから、活動指標として掲げました。 (最終目標と最終年度)			- %			順調
					やや遅れ	順調	
(最終目標と最終年度)			%	遅れ			

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	今年度は、陶芸教室、集団活動宿泊体験プログラム等、合わせて45回実施し、不登校やひきこもり、非行や発達障害等の児童に対して、社会適応力や対人関係能力等の向上に努めました。活動の有効性は高いと考えます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	最小の経費で最大の効果を上げるべく、計画的かつ効率的な予算の執行に努めています。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
本事業は、施策に対する有効性も高く、不登校児童対策や非行等の児童のスキル向上の場として、重要な事業です。今後も目標の達成に向けて、着実な取り組みを進めていくことが重要です。非行や不登校、発達障害児の増加に伴い、学校だけでは対応できない児童生徒のスキル向上の場として社会適応力を身につけさせるとともに、その家族支援も継続して実施します。